



横浜市立城郷小学校  
明治 33 年 6 月 創立

# 学校だより

めざす子ども像

令和 4 年 1 月 25 日  
2 月 号



ともに学び、よりよい生き方を見つけ出す しろさとっ子

◆学校だよりはホームページにも掲載されています。右の QR コードからもご覧になれます◆

## 思い通りに

こうちょう さんべい あつし  
校長 三瓶 淳

朝、正門に立ち、登校見守りをしていると、子どもたちの挨拶に負けないぐらい元気に、鳥がさえずり合っていました。4～5匹のスズメたちでした。体半分は葉に埋もれて、首から上しか見えませんでした。とにかくずっと仲間たちと話合っているみたいでした。何気ない朝の風景かもしれませんが、今はそれすら微笑ましくも、羨ましくも思えました。

さて、既に学校HPでもお知らせいたしましたが、まん延防止等重点措置が発令されたため、少しずつ従来型に戻っていた教育活動も異学年交流や保護者を招くイベント等について、中止せざるを得なくなりました。中々思い通りにいかないものです。しかし、地震や台風のような自然災害と違い、このコロナウィルス感染症拡大に関しては、人(自分)の力で感染しないことも拡大させないこともできるものかと思えます。これまでのように、各家庭・お子さんと学校が思いを一つにし一度の学級閉鎖もすることなく、この危機を乗り越えていきたいと思っています。

ところで、時節柄受験生を抱えているご家庭は、受験への重圧ばかりでなく、健康面に関しても特段の配慮をされているのかと察しますが、先日は受験会場で思いもよらぬ傷害事件が発生し、さらなる心労が増えたかと思えます。被害に遭われた方々の早い治癒を願うとともに、加害者の動機や環境に思うことがありました。「東大、医学部、有名受験校、高校2年生、成績の伸び悩み、計画的」がキーワードであり、事件後の「保護者の謝罪」です。想像の域を超えませんが、加害者は幼少期より成績が良く、人の命を救う仕事を志して大学最高峰の医学部を志したのだと思います。その親にとってもさぞかし自慢の息子だったことでしょう。それが受験まであと1年を残しての自暴自棄的な行動。思い通りにならないことへの代償にしては、やってしまったことが大きすぎます。彼には本音で相談したり、語れたりする人はいなかったのでしょうか。

人は物心がついてから、大小様々ですが誰しも夢や希望、そして目標をもちながら生きていくと思えます。でも、毎回叶う人はどれだけいるのでしょうか。思い通りに進まないことの方が、多いのではないかと思います。失敗した時や挫折感を覚えた時は、どうしても一人で抱え込みがちです。自分から声を出せなくても周囲が気付いて「ドンマイ。」と声をかけてくれる環境や「失敗したって大丈夫だよ。」と次へのステップを後押ししてあげる環境、そして、どんなに小さな成功でも「凄いね！頑張ったね！」と認めてあげる環境が大切だと感じます。そんな環境下で育つ子は、自分の力でどんな壁にも挑戦したり、乗り越えていったりするのではないのでしょうか。『思い通りにならない』と、現在の環境を嘆くより、見方・考え方を変えて、新たな視点をもって物事に挑戦し、コロナ禍前の自分自身よりもたくましく生きていく自分を探していきたいですね。